

# “病気になっても人生を諦めない”を支え、 地域に寄り添う「かかりつけナース」を目指す

Company Data



代表取締役

遊佐 美香



@CERISIER1226

## 訪問看護ステーション スリジエ 株式会社 スリジエ

広島県福山市山手町六丁目 18 番 12 号

30 年以上にわたり在宅看護の現場に携わってきた遊佐社長。自身の家族介護の経験を通じて、「家族の代わりに駆けつけられる存在」の必要性を痛感したという。現在は『スリジエ』の代表として訪問看護を軸にしながら、“かかりつけナース”という新たな地域支援の形を目指している。そんな社長の歩みと事業への想いにタレントのつまみ枝豆氏が迫った。

——遊佐社長は、30 年以上にわたり在宅看護の現場に関わってこられたそうですね。

はい。広島県尾道市の出身ですが、21 歳で結婚して宮崎県都城市へ移り住み、そこで訪問看護に携わるようになりました。当時はまだ「訪問看護」という言葉もほとんど浸透しておらず、“往診ナース”などと呼ばれている時代でした。方言も分かりませんし、不安だらけで、実は泣きながら現場へ向かっていたこともあったんです。

——まさに手探りの中で、在宅看護の原点を築いてこられたわけだ。

そうかもしれませんね。その後は子育てをしながら、様々な仕事を経験しました。病院勤務だけでなく、内職や教員など色々な働き方をしてきましたが、「もっと学びたい」という気持ちはずっと持っていました。そして福山へ移り、病院勤務の傍ら大学へ通い、在宅医療や訪問看護への学びをさらに深めていったんです。

——現場だけでなく、学び続ける姿勢も大切にされてきたんですね。

ありがとうございます。ただ、今回独立を決意した一番の理由は、母の介護でした。仕事をしながら認知症の母を支える中で、「今すぐ来てほしい」と連絡が入ることも多くて。その一方で、医療現場でも、介護のために仕事を辞めざるを得ない方々をたくさん見てきました。そ

んな時、「家族の代わりに駆けつけられる存在が地域に必要なのでは」と強く感じました。

——ご自身が当事者になったことで、見えてきた課題があったと。

はい。都会では“かかりつけナース”という形も少しずつ広がっていると知り、「これから必要になる」と感じました。ただ、いきなり始めるのは難しいので、まずは訪問看護ステーションを立ち上げ、その土台をつくろうと考えたんです。病気になると、「できないこと」に目が向きがちですが、本当は“病気になってもできること”はたくさんありますからね。

——“人生を続けていくための看護”という考え方が、とても印象的です。

そう言っただけだと嬉しいです。私は、利用者さんが最後までその人らしく暮らせることを大切にしたいんです。好きな場所で、好きなものを食べたり、大切な家族やペットと過ごしたり。そういう時間を支えられるのが在宅看護だと思っています。また、看護師自身が疲弊しすぎない環境づくりも重要だと感じていて、当社では DX も積極的に導入しています。音声入力などを活用しながら、少しでも利用者さんと向き合う時間を増やしたいですね。

——利用者さんだけでなく、“支える側”の環境まで考えられているんですね。

看護は精神的な負担も大きい仕事です

からね。だからこそ、地域の中で支え合える仕組みをつくりたい。ケアマネジャーさんと地域の方々とも丁寧に関連しながら、「困った時にまず相談できる場所」になれば嬉しいです。

——最後に、今後の展望をぜひお聞かせください。

5 年以内を目標に、“かかりつけナース”の仕組みを本格的に形にしていきたいですね。病気や障がいがあっても、「やりたいこと」を諦めずに暮らせる社会を地域の中で実現していきたいと思っています。そして『スリジエ』が、“街の保健室”のような存在になれば嬉しいです。

(2026 年 4 月取材)



「長年在宅看護の現場を見続けてこられた遊佐社長ですが、その経験だけでなくご自身の介護経験が今の事業につながっている点がとても印象的でした。『病気になっても人生を諦めてほしくない』という姿勢には、医療従事者としてのだけでなく、一人の家族としての想いも込められているのだと感じましたね」

interviewer

つまみ枝豆

